

三隅農業の動き

あれこれ

●団地転作が大幅に伸びる

本町の転作率は最終的に二八・五％となりました。水稲に替る生産性の高い転作物物は、なかなかありません。当面、加算制度で助成金の高い小麦、大豆、飼料作物など一般作物を中心に栽培しておりますがそれに加え三ヘクタールなりの団地化を行い有利な団地化加算を取るようになっています。この団地化加算は本県では二十％前後ですが本町では昨年は三十三・四％で本年は五十三・二％と大きく伸びております。団地化面積が約六十三ヘクタールで十アール当り二万円ですから一、二六〇万円が町に入ることにあります。これも農区長さんを中心とした地域リーダーの、なみなみならぬ努力の結晶と感謝しております。農業の諸情勢は、より大きく変革していくものと考えます。本年度の互助制度参加農家は九十五％と全国的にも驚異的な数字を示しております。この農家の連帯が地域農業再編成の基盤となりましょう。

●積極的に堆肥の利用を

昔から「灯台もと暗し」といわれておりますが全県一の堆肥センターを持つ本町の水田には機械銀行調べでは余り堆肥が投入されていないようです。過日、大阪市場の視察研修を行いました。が市場サイドからも「とくに基盤整備水田で、排水対策と堆肥多投が実施できないところでは優秀な野菜産地として存続出来ない」と言い切っています。市場の紹介で奈良の広陵町の茄子生産を見て来ましたが排水(図1参照)と堆肥の投入はバッチリやっていました。この産地でも堆肥の多投農家は十アール当り十五トン、堆肥投入の少ない農家は十アール当り七トンと収量に大きな差を出しております。茄子一キロ当り百円としますと一五〇万と七〇万で収益も

(図1)



大変な較差を生じています。普及所の先生方の話を聞いても、堆肥を投入している水田は生産も安定しております。堆肥の投入については十アール当り二トン散布して五〇〇〇円(農林水産省の話では日本一安い堆肥と言っております)となっております。刈取り後この堆肥の散布とデスクハローによる深耕をあわせ実施して下さい。昨年、今年と生島、田屋の堆肥センターの増築を行い良質堆肥の生産を目ざしておりますので悪評の臭気も改善されましょう。

●次第ほそりの西瓜

「三隅町西瓜」と言えば下関市場の銘柄品でした。当時十ヘクタールの面積がありました。現在は二・五ヘクタール程度となっております。本年は西瓜の価格は良好でしたが市場で、隣の日置西瓜に、おされっぱなしでした。主な要因は生産量の差です。また町内西瓜の面積の減退は水田の基盤整備による排水不良と生産農家の高齢化等があげられます。転作に当って戦略作物の選択について、いろいろと苦慮していますが今まで町内に育った特産西瓜の再興が出来ないものかと思案しているところですが、そこで対応策として排水については先ず団

●千両の面積が増加傾向

地化して畑化する。思い切ったは場の周囲、ほ場を縦、横数本の排水溝をバックフォール、トレンチャー等で設置する。また労力対策として集団化によって基本作業の防除等は共同で行い省力化を図るなど、工夫すれば新しい方法がみ出されるものと思います。実際には難しい課題があると思えますが西瓜生産中核農家、農区リーダーの方々と協議し具体的に対応策を樹て特産西瓜の再興を念じております。

千両の出発は下中小野の兼頭さんが県外研修から持ち帰ったものです。現在養豚経営を主軸にしておりますが、千両への夢は心に残り種子の導入、苗の育成配付などボランティア活動で町内の千両生産を力づけて来ましたが、その後、先進農家の千両生産の動きも活発となり小郡市場では一つの産地として認められ生産農家の収益も伸びて来ました。転作面積も拡大され千両栽培の希望農家も増加し昨年は農協に千両部会を組織しました。黒い網のかかったパイプハウスも皆さんの目にとまったことと思います。現在町では七九アールの面積があります。栽培ご希望の方は農協生産課へご相談下さい。

三隅ニット(株) 従業員募集



このたび、三隅ニット株式会社では事業拡張に伴い左記により女子社員を募集しておりますので、履歴書をご持参のうえ、三隅ニット株式会社へご相談ください。

記

募集人員 裁断士(二名)

検査員(一名)

縫製員(二名)

年齢 十八歳~五十歳

給与 社内規定により優遇、昇給(年一回)

勤務時間 手当(年二回) 午前八時二十分より午後五時

福利厚生 各社会保険、作業服貸与

休日 日曜、祭日

通勤費 通勤規定による

募集期間 九月末日まで

問い合わせ 三隅ニット株式会社(宗頭)

3-1-2535